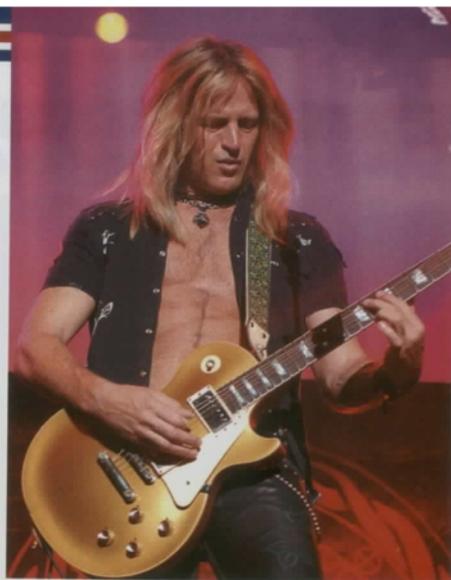


Live Guitars-2 Doug Aldrich / WHITESNAKE

白蛇の伝統的サウンドを現代に正しく継承する王道のギター・チョイス



「『GOOD TO BE BAD』(’08年)では、曲を良くするためにあらゆるチューニングを試した。これまで多くのバンドで作品を手掛けてきたけど、過去、こんな風に色々なチューニングを試したことはないよ」——アルバム・リリース時のインタビューでこのように語っていたダグ。その最新作に伴うツアーともなれば、当然チューニングの異なるギターが必要……という訳で、彼が今回持参したギターはすべて異なるチューニング用だ。その内訳は、[全弦半音下げ]用の[7]をメインに、[全弦1音下げ]([Is This Love] [A Fool In Love] 他)用の[6]、ドロップD^b([Can You Hear The Wind Blow])用の[5]、[全弦1音下げ]からさらに5 & 6弦を1音下げた[Lay Down Your Love]用の[8]……といった具合で、アコは[9]が[Ain't Gonna Cry No More]、[10]が[Deeper The Love]用。また前回来日時まではストラトも帯同していたダグだが、今回は完全にレスポール系オンリーである点にも注目したい。

▲前回のツアーからメイン・ギターの座に就いている、カスタム・ショップ製57年型レスポール(’89年製)。チューニングは全弦半音下げ。



5 GIBSON C/S 1958 Les Paul Reissue

▲カスタム・ショップ製の’58年型レスポールは、[全弦半音下げ+6弦のみさらに1音下げ]チューニング用。



6 GIBSON Les Paul Custom

▲ここ数年、[全弦1音下げ]チューニング用の定番ギターとなっている79年製のレスポール・カスタム。



7 GIBSON C/S 1957 Les Paul Reissue



4 SUHR Modern

▲今回レブが持参したギターの中で唯一の新顔が、’08年発表のサイのニュー・モデル「Modern」。今回のセットでは「全弦半音下げ」にチューニングされ、結果、最も多くの曲で使用された。

▲ボディ・トップには最上級のキルテッド・メイプルがラミネイトされ、高級感を醸し出している。ちなみにボディ・バック&ネックはマホガニー。



8 ZEMAITIS S22 MT

▲今回が日本初見参となるダグ所有のゼマイトイスは、[全弦1音下げ+5弦&6弦のみさらに1音下げ]用としてスタンバイ。



9 COLE CLARK FL1AC

▲オープンB(6弦から[B/F#/B/F#/B/D#])にチューニングされたこれは、「Ain't Gonna Cry No More」で使用。



10 GIBSON Hummingbird

▲[全弦1音下げ]チューニングで、「Deeper The Love」にて使用されたこのハミングバードは、日本でレンタルしたものだ。